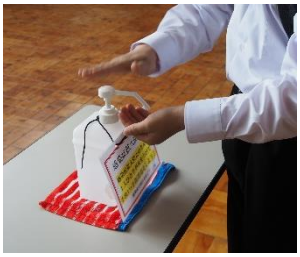
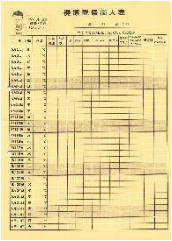
令和２年５月２８日
小松市立芦城中学校

感染症拡大を防ぐために

国の学校再開ガイドラインを踏まえた芦城中学校の取組

	芦城中学校の取組
① 健康調査	・生徒及び教職員は登校・出勤前に自宅で検温してくる。 ※発熱の場合、微熱でも風邪の症状がある場合は、登校・出勤しない。 ・生徒は 8：10 に、発熱や健康状況を記入する健康観察個人票に記入し、教職員が朝礼前に確認する。 ※発熱や体調不良の生徒は，保護者に連絡したうえで、速やかに帰宅させる。  
② 手洗い指導 咳エチケット指導	・6 月 1 日学活で、確認する。DVD を視聴し、内容について資料で確認する。 ・正しい手洗いの仕方・咳エチケットについて指導し、手洗い場等にポスターを提示し、徹底を図る。 ・消毒液を設置し、使用できる環境を作り、生徒に指導する。 ・原則マスクを着用する。給食時や体育等では、指導のもとマスクを外すことがあるが、近距離での活動にならないよう配慮する。※マスクは保管袋に入れて各自管理させる。 ・マスクを忘れた場合は、職員室へ取りに行かせる。 ・手洗いを十分に行うよう指導する。給食準備前の手洗いを徹底する。 （配膳する生徒と給食班は、手指消毒も行う。） ・清潔なハンカチを使用することを指導する。 共有しないことを指導する。 ・移動教室での授業の後や共有スペースでの活動後は、必ず手洗いすることを指導する。

③ 環境衛生	・学校の対応方策を学校医や学校薬剤師に確認してもらい、助言を受ける。 ・毎日の清掃を通常より丁寧に行うとともに、ドアや窓の取っ手、階段の手すりなど、多くの生徒が触れるところは毎日消毒を行う。 ・ウォータークーラーは、当分の間、使用禁止とする。
④ 健康指導	・十分な睡眠、適度な運動やバランスのとれた食事を心がけることについて、生徒に指導し、保護者にも HP・配信メールや文書等で周知する。 ・水筒を持参し、十分な水分を持ってくるよう指導する。
⑤ ３密対策	・授業では、常に「３密」を避けて実施する。 ・廊下側の窓を常時あけておき、休み時間ごとに窓側の窓を開けて換気する。窓側の窓も前後 2 か所は廊下側のドア・窓同様、常時少し開けておく。 ・当分の間、全校集会は実施しない。学年集会は体育館で実施する。 ・授業でのペアやグループ活動では人と十分距離を取って行うよう配慮をする。 ・生徒及び教職員は、マスク着用する。
⑥ 学習対応策	・前年度の未指導分から指導する。 ・単元全体を見通し、効率的な授業を展開していく。 ・効果的な指導方法等を検討し、知識や技能を身につけることを大切にしながら、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を展開する。 ・授業内容と学習課題を連携させ、基礎的な学力の確実な定着を目指して取り組む。
⑦ 部活動	・部活動開始時と終了時に手洗い・手指消毒指導をし、健康観察を行う。 ・使用した場所や道具等の消毒を教員で協力して行う。
⑧ 学校給食	・分散手洗いを実施し、「３密」を防ぐ。 ・マスク着用を徹底させる。 ・手洗い指導を徹底する。 ・配膳する生徒及び食管等準備する生徒は、手洗い後の手指消毒を指導する。 ・「いただきます」「ごちそうさま」の合掌時もマスク着用する。 ・お代わり等は教員が行う。多数の生徒が食管に触れることを避ける。 ・前を向いて、静かに食べる。 ※マスクは机上に置かないで、保管袋に入れて各自管理する。 ・牛乳パックは、各自でつぶして大袋の中に入れる。 ・担当教員は、給食当番表のチェックを必ず行い、サインをする。 ・給食指導では、給食準備及び給食後の手洗い指導を職員が協力して指導する。

⑨ 昼休み時間	・グラウンドは全学年使用できる。ボールは職員が管理する（体育部と生徒指導部）。 ・図書室は、学年ごとに割を決め使用する。 ・体育館、玄関ホール（1 年）、コミュニティー（2 年）、多目的ルーム（3 年）を開放する（各学年で各階の使用状況を見守る）。
⑩ 清掃活動	・床の雑巾がけをやめ、モップを使用する。教員が、生徒の使用した道具の消毒を行う。 ・トイレ清掃は、手袋を使用させる。 ・清掃終了後の手洗いの徹底を指導する。 ・通常の掃除に加え、住居用洗剤を使い、机をふく。
⑪ 校内消毒	・毎日、放課後に職員で次亜塩素酸ナトリウムを用いて校内清掃を行う。 ・廊下に設置した蓋付きゴミ箱のごみを捨てる。
⑫ 保健室利用	・37.5 度を超える生徒、倦怠感・風邪症状のある生徒は、保護者に連絡し早退させる。 ・怪我等での来室者と保健室利用が重ならないように、体調不良の生徒は相談室２で保護者が迎えに来るまで待機する。 ・入室制限を設ける。
⑬ 心のケア	・学級活動等で、感染者、濃厚接触者等に対する偏見や差別は許されないこと、また、心配や不安がある場合には、先生やスクールカウンセラーに相談することを指導する。 ・スクールカウンセラー等との連携体制を重視し取り組む。